

# 予科クラス幹事、一橋寮部屋長、バレー部員として予科生活を全うした、率先垂範の監視艇艇長

板尾興市

大正 12 年生れ 昭和 18 年 12 月 学徒出陣 享年 22

東京都 府立一中出身

昭和 16 年 4 月 東京商大予科入学

昭和 18 年 10 月 東京商大進学

高島善哉ゼミ

バレー部

昭和 18 年 12 月 武山海兵団入団

昭和 19 年 夏 電測学校入学

昭和 19 年 12 月 士官任官・第 22 監視艇戦隊配属

昭和 20 年 2 月 11 日 監視任務に出動

昭和 20 年 2 月 18 日 太平洋上にて空襲のため戦死



## 寮・部活で後輩に慕われるよき先輩

板尾興市は一人っ子だった。東京麻布区（現在の港区南麻布）で大切に育てられ、地元の小学校から名門府立一中（現都立日比谷高校）に進学した。彼が東京商大予科に入学したのは、日米開戦

も噂されていた昭和 16 年 4 月だった。バレー部に所属、控え選手ではあったが部活も真面目に取り組み、寮の同室の後輩は彼に勧誘されバレー部に



寮の友人たちと（上段中央）

に入った。学業の面でも優秀で、2 年生になり部屋長として寮に残り、後輩の指導に当たった。同室の後輩の回想では、板尾は率先して読書会を開き、毎晩寝る前に『ツァラトゥストラはかく語りき』を彼が一節ずつドイツ語で暗唱し、後輩たちがそれを繰り返した。また、板尾は黙々と読書ノートを作成し、学問をする姿勢を後輩に示していた。

昭和 17 年度から旧制高校の修業年限が半年短縮されたため、板尾は昭和 18 年 9 月に予科を卒業し、本科に進学した。9 月 22 日卒業式の日を次のように日記に記している。「今日は九月に入って初めての秋晴れの上天気。われらの予科を去り本科に進むのを祝うがご



予科卒業記念 右端が板尾

とくであった。・・・七時半よりの東条首相の講演に間に合った。これぞまさに来るべきもの。吾々の運命の見通しに影響を与えるものである。学徒の徴兵猶予停止、法経文の

諸学校の教育停止、その整理統合。かくして何時の日か近き将来吾々の運命は大転換を遂げる。今や悲観も楽観もない。・・・」（『新版きけ わだつみのこえ』 p.175）

## 学徒出陣・レーダー技術を学んで実戦へ

それから二月余りの短い国立生活ののち、彼は出陣学徒のひとりとして 12 月 10 日海軍武山海兵団に入団した。板尾と海軍の訓練を共にした大学同期の河西は、彼の思い出を次のように記している。「武山からは藤澤の電測学校と一緒に電探（レーダー）関係の教育を受けたのだが、彼は我々文科系の者には難解だった電波、電気関係の理論も良く修得し、万事率先垂範、やがて立派な兵科将校になるものとして皆から大いに敬愛されていた。」

昭和 19 年 12 月に士官任官した板尾が配属されたのは、横浜の第 22 監視艇隊司令部（通称黒潮戦隊）。任務は太平洋上に監視艇を浮かべ、海空からの敵の侵攻を監視するもの。漁船を改修した監視艇には板尾が操作を学んだ新型レーダーも装備されていたようだ。



昭和 19 年 12 月 母常子と

## 不運が重なり、敵の大攻勢に遭遇

昭和 20 年 2 月 11 日、彼の監視艇は任務に就くため出港した。運悪く同じ時期に米軍は監視艇の掃討作戦を開始した。2 月 16～18 日の 3 日間に板尾艇を含む 15 隻が硫黄島上陸支援部隊の空母から出撃した艦上戦闘機・攻撃機により撃沈された。黒潮部隊としては最悪の戦闘であり、500 名以上の乗員が犠牲となった。

しかも、2 月 11 日は板尾が任務につく順番ではなかった。他の士官の都合で交代して出撃したのだった。